



## 2024年3月期 第2四半期決算

(2023年4月1日～2023年9月30日)

決算補足説明資料

2023年10月31日

デジタルアーツ株式会社  
(証券コード 2326)

## Web

セキュリティを意識することのない  
安全なWebアクセスを実現



**i-FILTER.**  
**i-FILTER@Cloud™**

エンドポイント  
Webセキュリティ **i-FILTER.**  
ブラウザ & クラウド

セキュア・プロキシ  
アプライアンス **ID-SPA.**

家庭向け有害サイト  
フィルタリングソフト **i-フィルター.**

## メール

セキュリティを意識することのない  
安全なメールの送受信を実現



**m-FILTER.**  
**m-FILTER@Cloud™**

必要なときに必要な助言を  
もたらすサーバーレスの誤送信対策

誤送信対策  
メール版 **m-FILTER.**  
Mail Adviser

NEW  
誤送信対策  
OWA対応版 **m-FILTER.**  
Mail Adviser OWA

## ファイル

### ファイル暗号化ソリューション

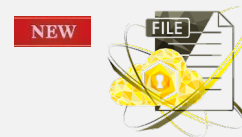
ファイルが作成された瞬間から自動で  
守り渡した後でも”あとから消せる”



**FINALCODE™**  
**FINALCODE@Cloud™**

### ファイル転送ソリューション

重要情報を外部に漏えいさせない  
安全なファイル転送を実現



**f-FILTER™**

## IDaaS

多要素認証を搭載し、クラウド  
サービスの安全なID管理を実現

NEW



**Start In™**

## コミュニケーション

職場や教育現場に「セキュアで快適な  
コミュニケーション空間」を実現

NEW



チャット  
オンライン会議 **Desk.**

ウェビナー  
ツール **Desk Event.**

- 01** 連結決算ハイライト
- 02** 個別決算ハイライト
- 03** 市場別売上高
- 04** 2024年3月期 施策の状況
- 05** 2024年3月期 今期取組み方針
- 06** 2024年3月期 通期業績予想
- 07** 2024年3月期 株主還元

## 2024年3月期 第2四半期決算補足説明資料

---

01

# 連結決算ハイライト

## 契約高

**4,976**百万円

(前年同期比+239百万円 / +5.0%)

- 企業向け市場はクラウドサービス需要の高まりとトータルセキュリティニーズ対応の新機能オプションによる新規案件獲得に加え、DACの新規顧客獲得による成長
- 公共向け市場は「GIGAスクール構想」案件の新規案件を継続して獲得しているが、一部の自治体向け案件が3Q以降にスライドした影響により減少

## 売上高

**5,563**百万円

(前年同期比+479百万円 / +9.4%)

- 企業向け市場はクラウドサービス系製品やライセンス販売系製品の売上高増加に加え、DACの成長による増加
- 公共向け市場は「GIGAスクール構想」案件の売上計上や官公庁売上により微増

## 営業利益

**2,188**百万円

(前年同期比△58百万円 / △2.6%)

- 売上原価はクラウドサービス系製品のライセンス数の増加によるサーバー費用の増加、DAJおよびDACの人員数増加による人件費増加
- 販管費は新製品リリースに伴う代理店向け拡販イベント費用の発生により増加

## 新製品のリリースとDACの人員増強による費用の増加

[単位：百万円]

	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	前年同期比	2024年3月期 通期 業績予想
契約高	4,737	4,976	+5.0%	-
売上高	5,084	5,563	+9.4%	11,500
売上原価	1,668	2,128	+27.6%	3,850
売上総利益	3,416	3,435	+0.6%	7,650
販売管理費	1,168	1,246	+6.7%	2,500
営業利益	2,247	2,188	△2.6%	5,150
営業利益率	44.2%	39.3%	-	44.8%
経常利益	2,263	2,201	△2.7%	5,150
親会社株主に帰属する当期純利益	1,558	1,521	△2.4%	3,550
EBITDA	2,745	2,670	△2.7%	-

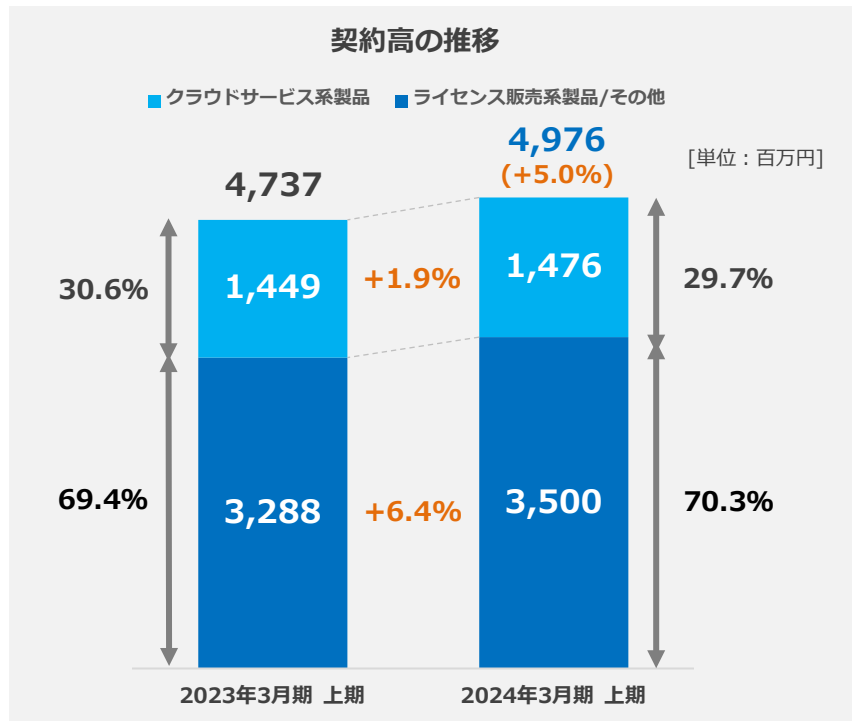
※ 「業績予想」は2023年5月9日公表の連結業績予想

※ EBITDA= 営業利益+減価償却費+営業費用に含まれる税金費用

[単位：百万円]

	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	前年同期比	主な増減要因
<b>売上原価</b>	<b>1,668</b>	<b>2,128</b>	<b>+460</b>	
労務費	727	923	+195	DAの開発人員の増強により増加(+24M) DACのコンサルタント人員増強により増加(+142M)
減価償却費	423	411	△11	
通信費	525	602	+77	クラウドサービス系製品のライセンス数増加と為替変動影響に伴うクラウドサーバー費用の増加(+77M)
その他	415	651	+236	DAの新製品開発に伴う増加(+72M) DACの事業拡大に伴う増加(+120M)
他勘定振替	△423	△461	△37	
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>1,168</b>	<b>1,246</b>	<b>+77</b>	
人件費	583	614	+31	DAの人員増加(+13M) DACの人員増加(+18M)
広告宣伝費	151	160	+8	
その他	433	471	+37	

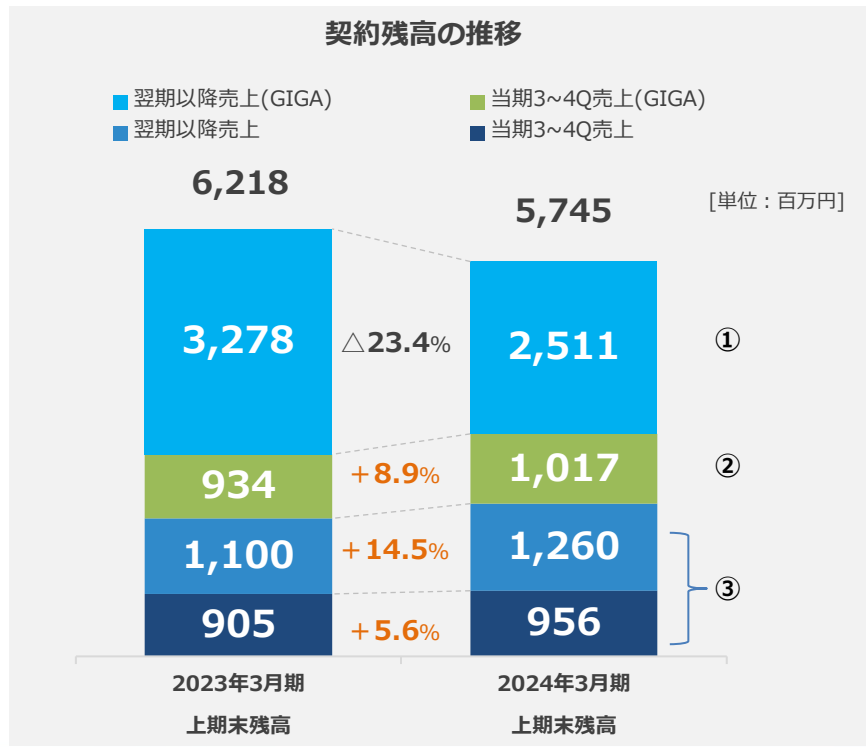
## 連結契約高は前年同期比**5.0%増加**の**4,976百万円**に成長



- クラウドサービス系製品は、企業向け市場においてクラウド需要の高まりを受け、新規案件を順調に獲得したことに加え、当期も「GIGAスクール構想」案件を新規獲得できたため+1.9%の増加
- ライセンス販売系製品/その他は、公共向け市場において一部の自治体案件の受注が3Q以降にスライドした一方、DACの売上高が増加し+6.4%の増加

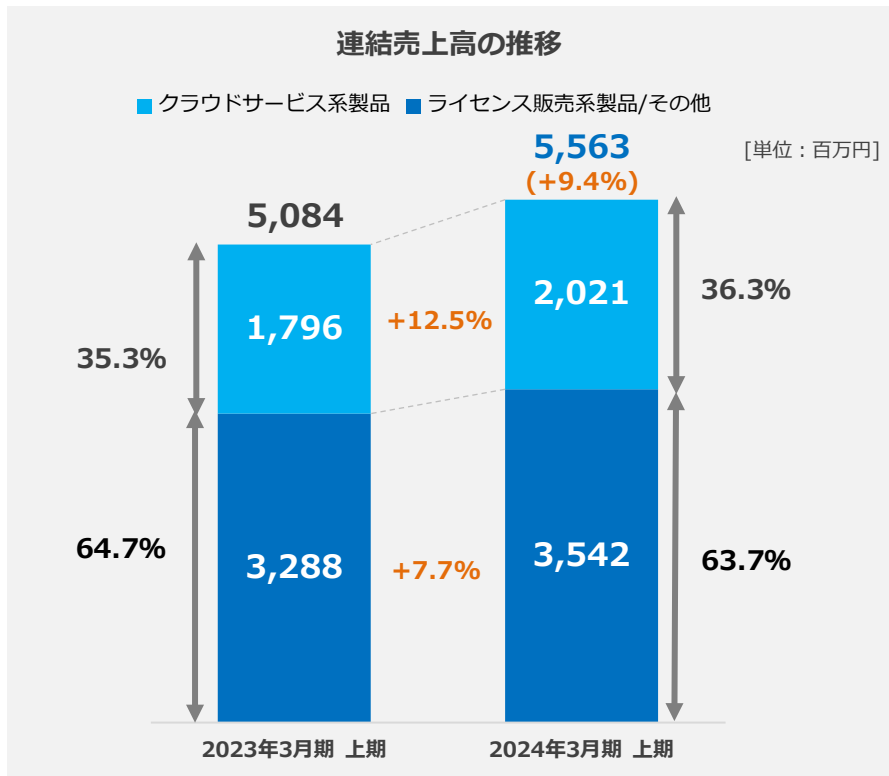


## 契約残高全体は減少したが、GIGAを除く契約残高が増加



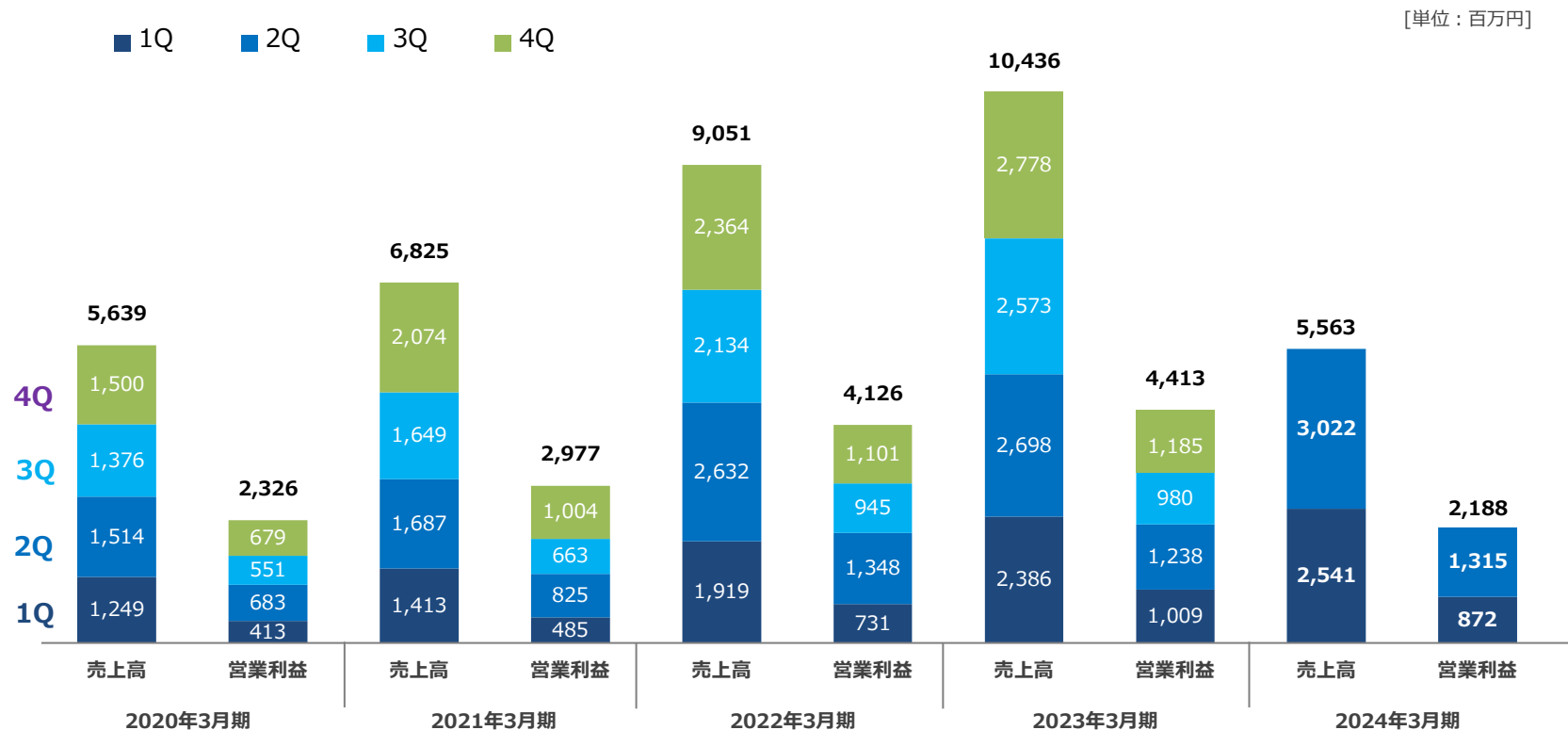
- ① 5年契約が多い「GIGAスクール構想」案件は時の経過により売上計上が進み、**翌期以降の売上計上額が減少**
  - ② 新規の「GIGAスクール構想」案件を継続して獲得できており、**当期3~4Q売上計上額は増加**
- 2024年3月期以降より「NEXT GIGAスクール構想」案件が増え契約残高は**再び急伸へ**
- ③ 1年契約が多い**企業向けもクラウドサービス系製品の割合が徐々に高まっており**、契約残高は着実に増加

## 連結売上高は前年同期比9.4%増加の5,563百万円に成長



- クラウドサービス系製品は、企業向け市場においてクラウド需要の高まりを受け、新規案件を順調に獲得したことに加え、当期も「GIGAスクール構想」案件を新規獲得できたため+12.5%の増加
- ライセンス販売系製品/その他は、公共向け市場において一部の自治体案件の受注が3Q以降にスライドした一方、DACの売上高が増加し+7.7%の増加

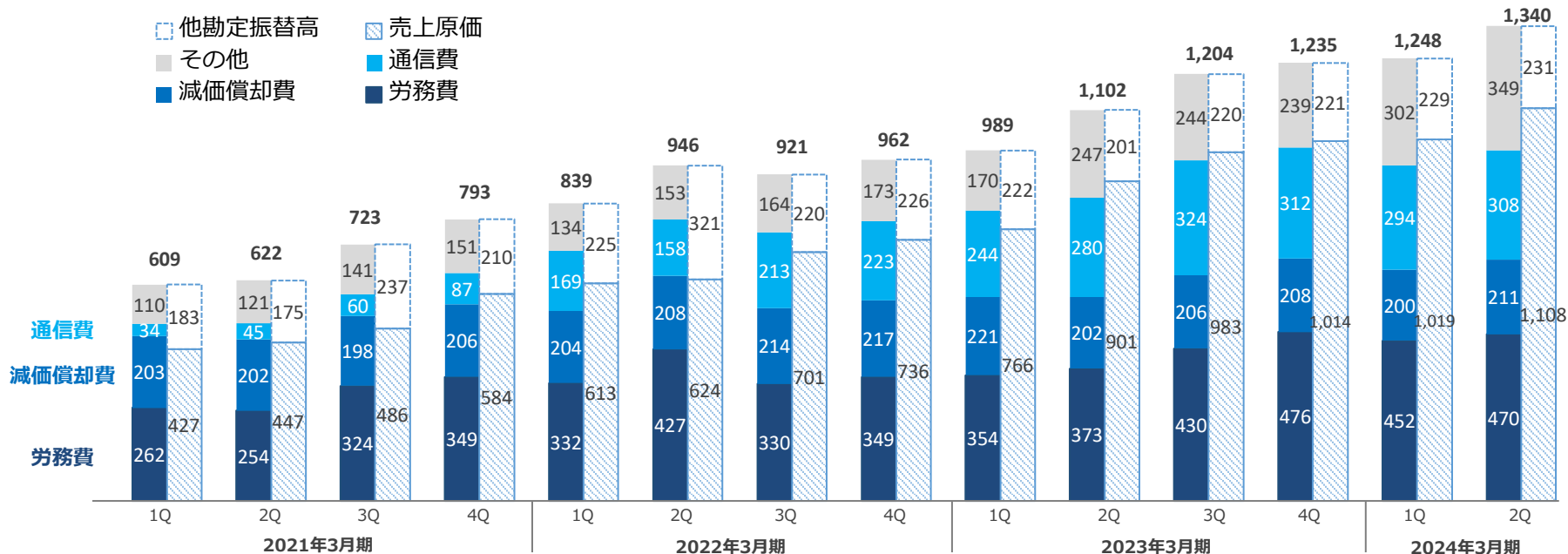
## 売上高は2Qとして過去最高を更新



## クラウドサービス系製品のライセンス数増加と 為替変動影響に伴うクラウドサーバー費用（通信費）の増加と DACのコンサルタント人員の増強に伴う労務費の増加

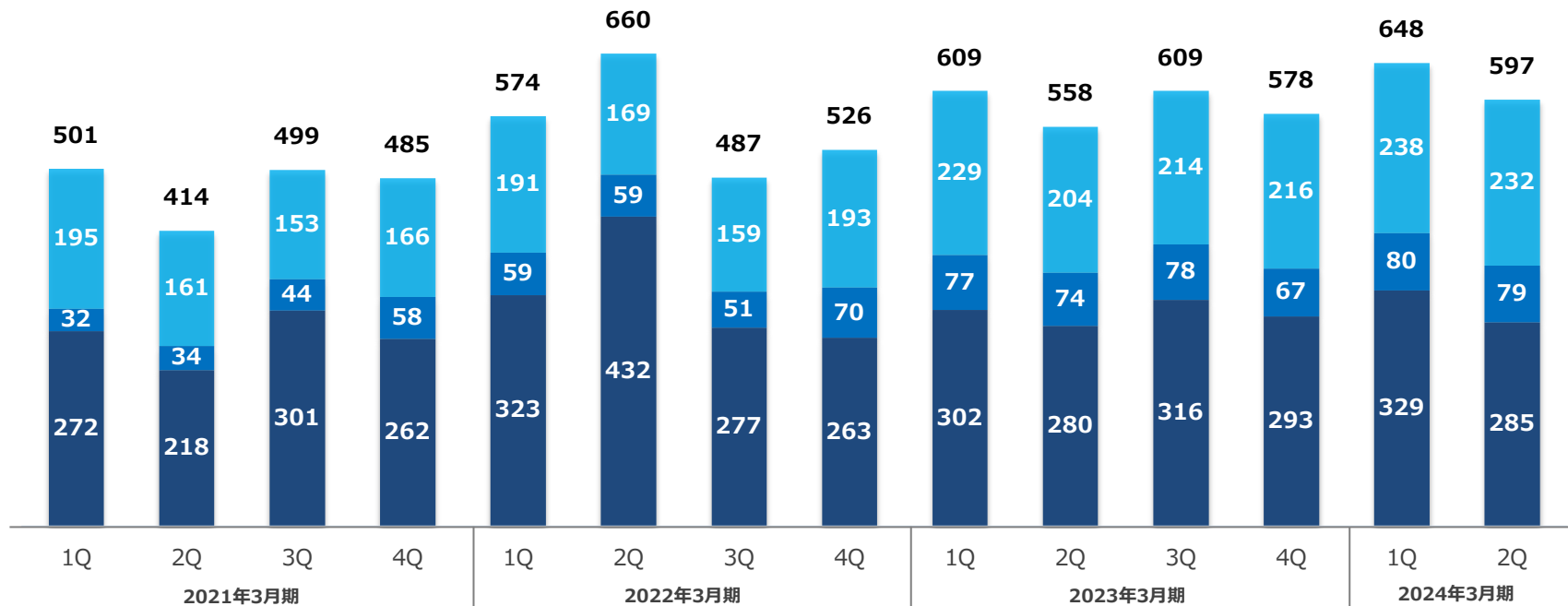
[単位：百万円]

- 他勘定振替高
- 売上原価
- その他
- 通信費
- 減価償却費
- 労務費



[単位：百万円]

■ 人件費 ■ 広告宣伝費 ■ その他



## 自己株式の取得・配当金支払により、総資産が減少し、自己資本比率が68.1%に向上

[単位：百万円]

	2023年3月期 第2四半期末 残高	2023年3月期 期末 残高	2024年3月期 第2四半期末 残高	前期末 増減率	主な増減要因
流動資産	18,088	18,925	18,637	△1.5%	
(うち現金及び預金)	16,654	17,018	16,259	△4.5%	自己株式買付資金(△1,500M)
固定資産	2,217	2,223	2,259	+1.6%	
総資産	20,305	21,149	20,896	△1.2%	
流動負債	7,090	6,924	6,582	△4.9%	未払法人税等△114M、DACライセンス仕入等買掛金支払に伴う減少△144M
(うち前受金)	5,748	5,187	5,172	△0.3%	
固定負債	50	50	50	+0.1%	
自己資本	13,131	14,141	14,229	+0.6%	自己株式取得△877M、支払配当金△561M、当期純利益+1,521M
純資産	13,164	14,173	14,262	+0.6%	
自己資本比率	64.7%	66.9%	68.1%	-	
ROE	12.3%	23.3%	10.7%	-	
ROA	7.9%	15.1%	7.2%	-	

## 2024年3月期 第2四半期決算補足説明資料

---

02

# 個別決算ハイライト

## 新製品開発費や通信費（クラウドサーバー）による費用増

[単位：百万円]

	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	前年同期比	2024年3月期 通期 業績予想
契約高	4,032	3,962	△1.7%	-
売上高	4,379	4,548	+3.9%	10,000
売上原価	1,093	1,244	+13.8%	2,650
売上総利益	3,285	3,304	+0.6%	7,350
販売管理費	1,067	1,133	+6.2%	2,350
営業利益	2,218	2,171	△2.1%	5,000
営業利益率	50.7%	47.7%	-	50.0%
経常利益	2,225	2,183	△1.9%	5,000
当期純利益	1,538	1,512	△1.7%	3,450

※「業績予想」は2023年5月9日公表の個別業績予想



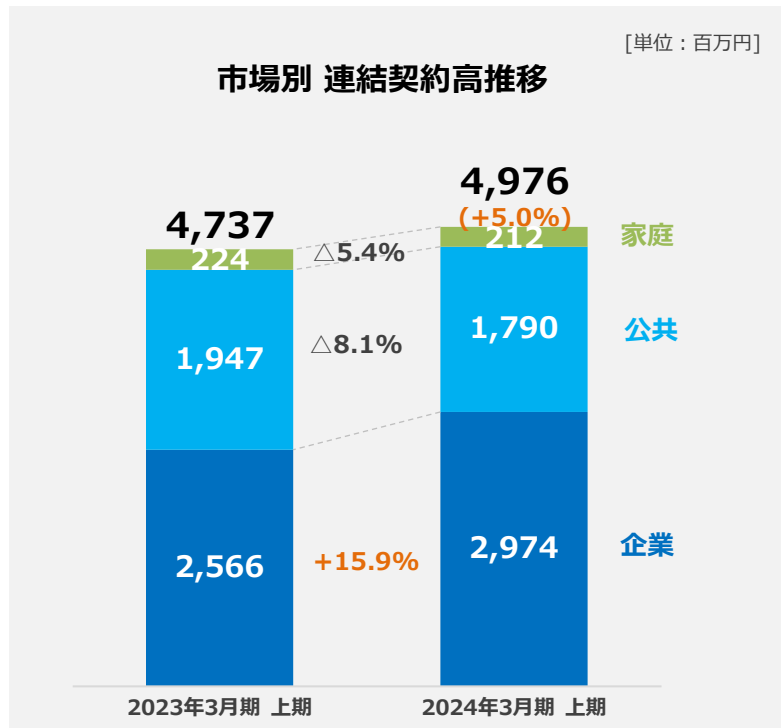
## 2024年3月期 第2四半期決算補足説明資料

---

03

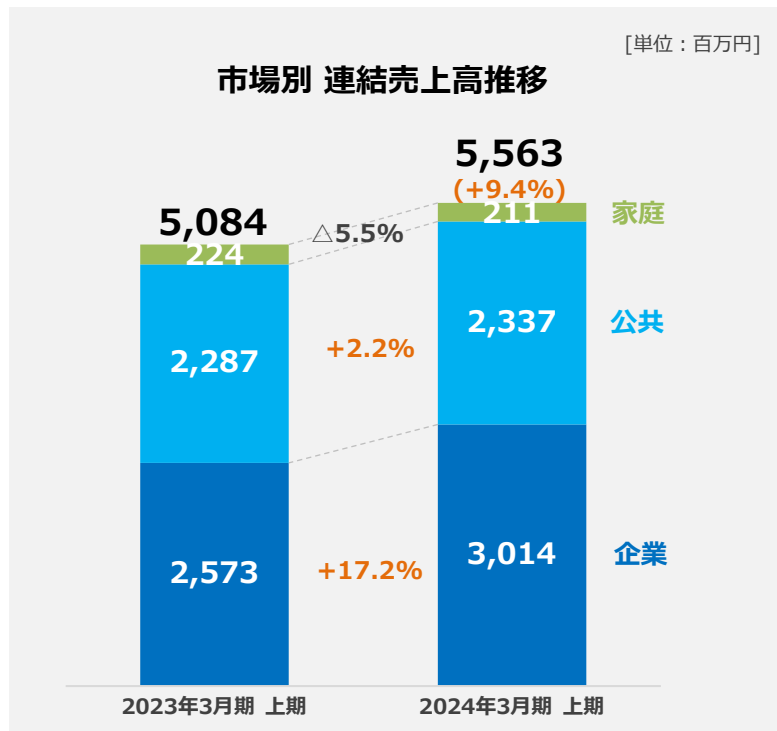
### 市場別売上高

## 企業向け市場はプラス成長するも、公共向け市場はマイナス成長



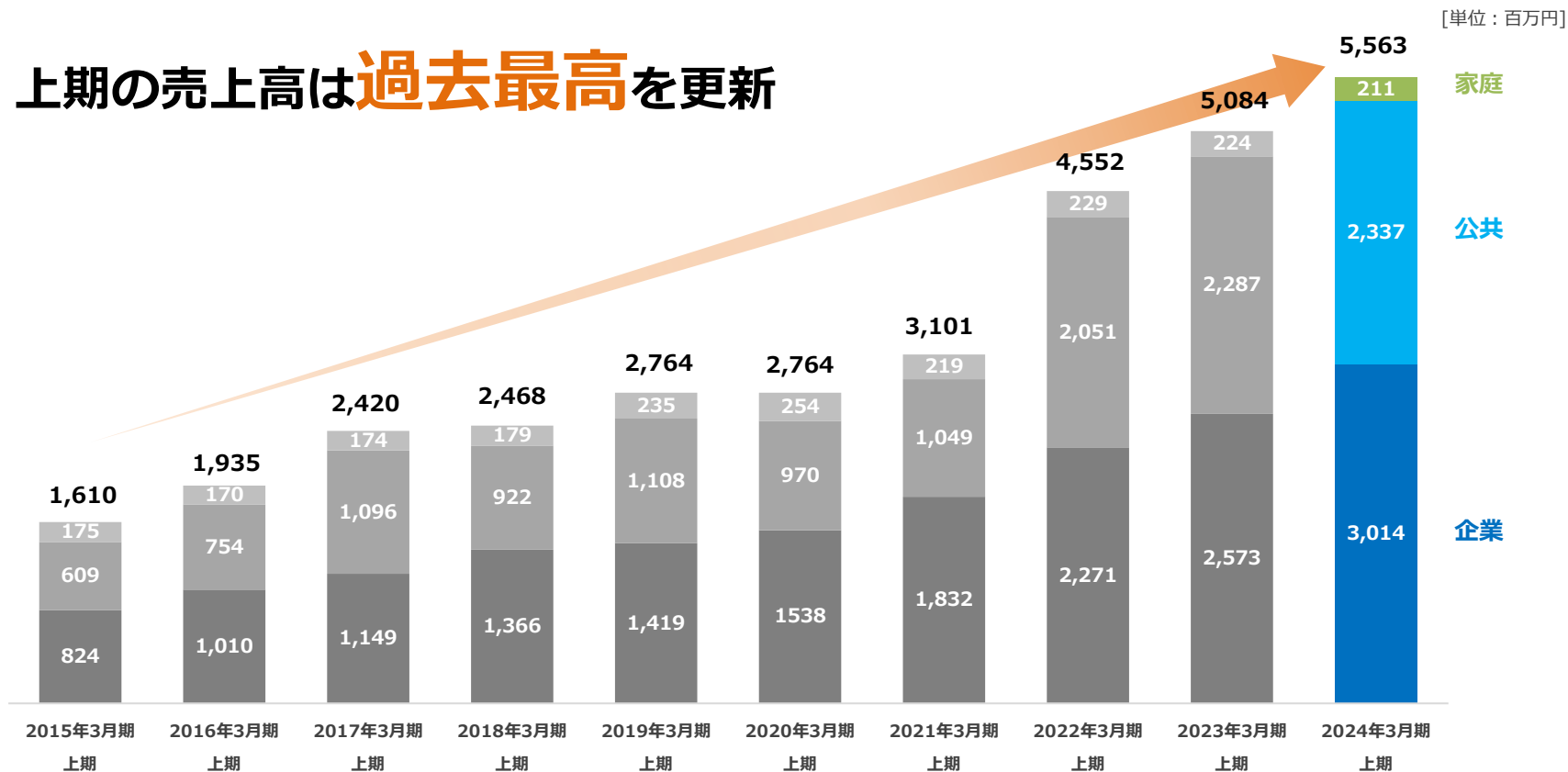
- 企業向け市場は、i-FILTER・m-FILTERシリーズの機能追加に伴う受注増加、ターゲットを明確にした拡販戦略の実行による新規案件獲得、DACの成長等により、408百万円（+15.9%）の増加
- 公共向け市場は、GIGAスクール構想案件の新規案件を継続獲得し、また官公庁向け大型案件を獲得。一方で、一部自治体案件が3QにスライドしたことやGIGA端末普及に伴う旧来のPC教室閉鎖の影響により、△157百万円（△8.1%）の減少

## 企業向け市場及び公共向け市場はプラス成長



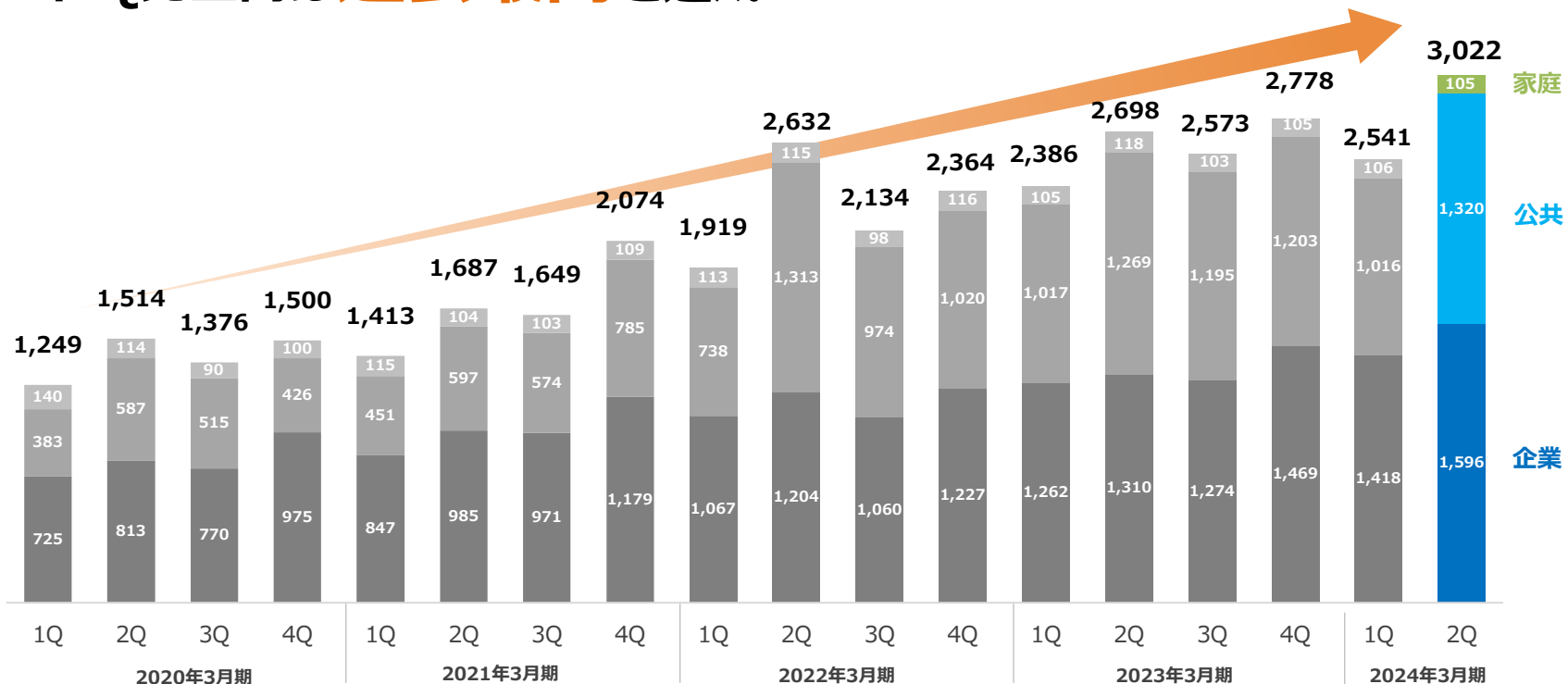
- 企業向け市場は、クラウド需要の高まりを受けて新規案件が増加していることに加え、DACの新規顧客獲得により、441百万円（+17.2%）の増加
- 公共向け市場は、一部の自治体案件の受注が3Q以降にスライドしたことやGIGA端末普及に伴う旧来のPC教室閉鎖によるライセンス販売系製品の減少の影響はあるが、継続して新規案件の獲得をしている「GIGAスクール構想」案件の売上計上や官公庁向け大型案件の売上計上により、50百万円（+2.2%）の増加

上期の売上高は**過去最高**を更新



## 当2Q売上高は過去最高を達成

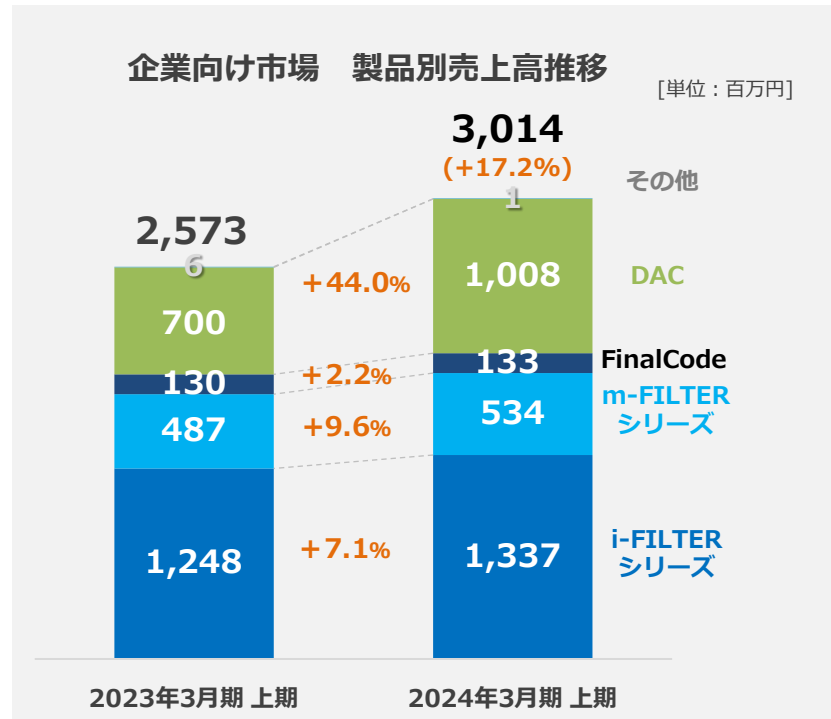
[単位：百万円]



03 市場別売上高

# 企業向け市場

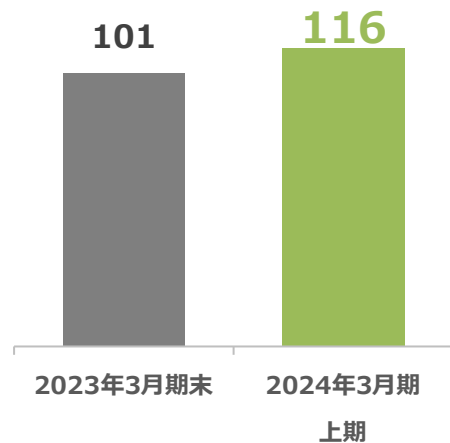
多様化するサイバー攻撃被害の多発による防御対象範囲の拡大やセキュリティ対策の一元化の流れに伴うトータルセキュリティへのニーズの高まりを受け、新製品・新機能をリリースし、順調に新規案件を獲得



- 従来境界防御モデルからゼロトラストモデルへの移行の動きにより、クラウド環境でのWEBセキュリティ需要が高まり、i-FILTERシリーズが好調に推移 (+88百万円/+7.1%)
- マルウェア対策や送受信のPPAP対策のニーズを捉え、m-FILTERシリーズが好調に推移 (+46百万円/+9.6%)
- PPAP対策やランサムウェア対策などのニーズを捉え、FinalCodeシリーズが堅調に推移 (+2百万円/+2.2%)
- 企業のDXニーズとセキュリティ対策ニーズの高まりから、DACが新規顧客獲得を進め大きく成長 (+308百万円/+44.0%)

## コンサルタント 人員数

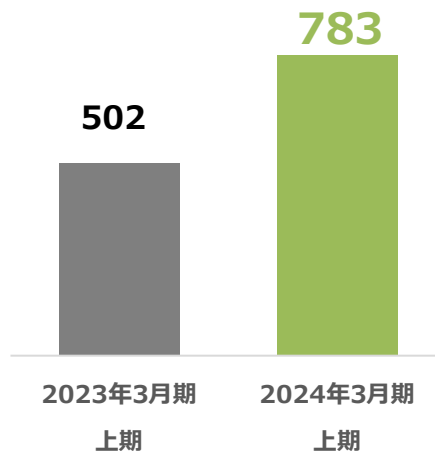
[単位：人]



業務改革・DXへの多くの知見と実績、また、テクノロジー・サイバーセキュリティ領域への高い専門性を有する人材を積極的に採用

## セキュリティコンサルティング 売上\*

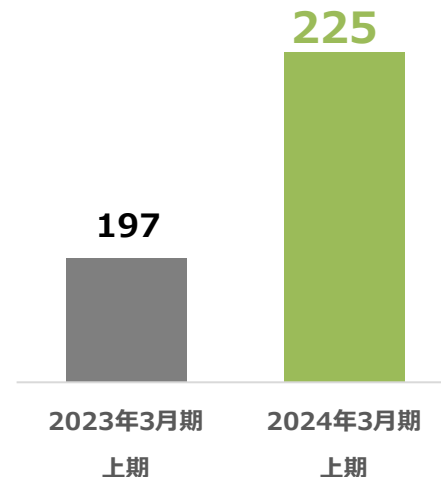
[単位：百万円]



ISMAPをはじめとしたセキュリティガバナンス構築支援や、先端テクノロジーの活用によるセキュリティ強化支援等、診断から構築・運用まで包括的な支援を行う案件の獲得により大きく成長

## IT戦略コンサルティング 売上\*

[単位：百万円]



デジタル活用による優位性構築を見据えたIT戦略立案、業務改革、CX向上等のコンサルティング案件の獲得により順調に成長

\*：DACの売上高（連結仕訳調整後）

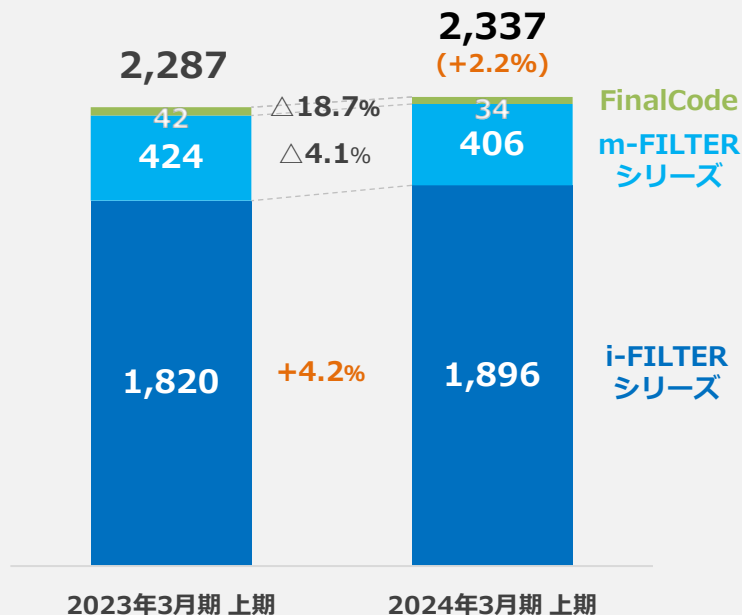


03 市場別売上高

# 公共向け市場

市場のトピックとしては、GIGA端末普及によるPC教室閉鎖や自治体強靱化の落ち着きが見受けられる

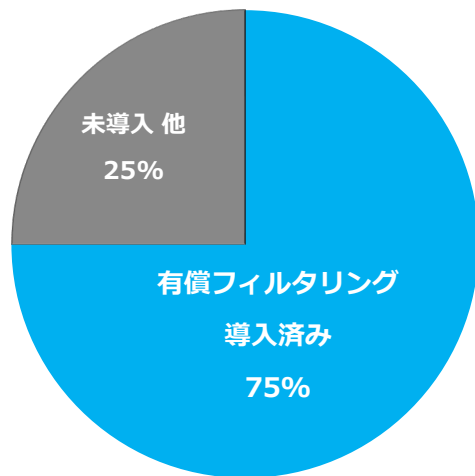
公共向け市場 製品別売上高推移 [単位：百万円]



- 一部の自治体案件の受注が3Q以降にスライドした影響やGIGA端末普及に伴う旧来のPC教室閉鎖による影響はあるが、前期以前から続く「GIGAスクール構想」案件に加え、官公庁向けの大型案件の売上計上により、i-FILTERシリーズが成長（+75百万円/+4.2%）
- 自治体向け案件で大型案件を受注したが、自治体セキュリティ強靱化による調達が前年と比較して落ち着きが見られ、m-FILTERシリーズが微減（△17百万円/△4.1%）

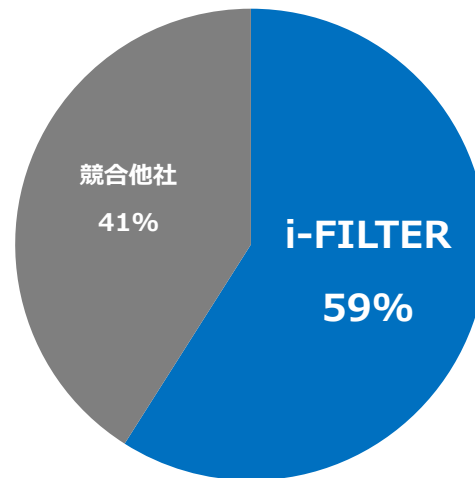
## GIGAスクール構想におけるフィルタリングの導入状況\*1

有償フィルタリング導入状況



- 有償フィルタリング導入済みの教育委員会は**75%**

有償フィルタリング導入シェア



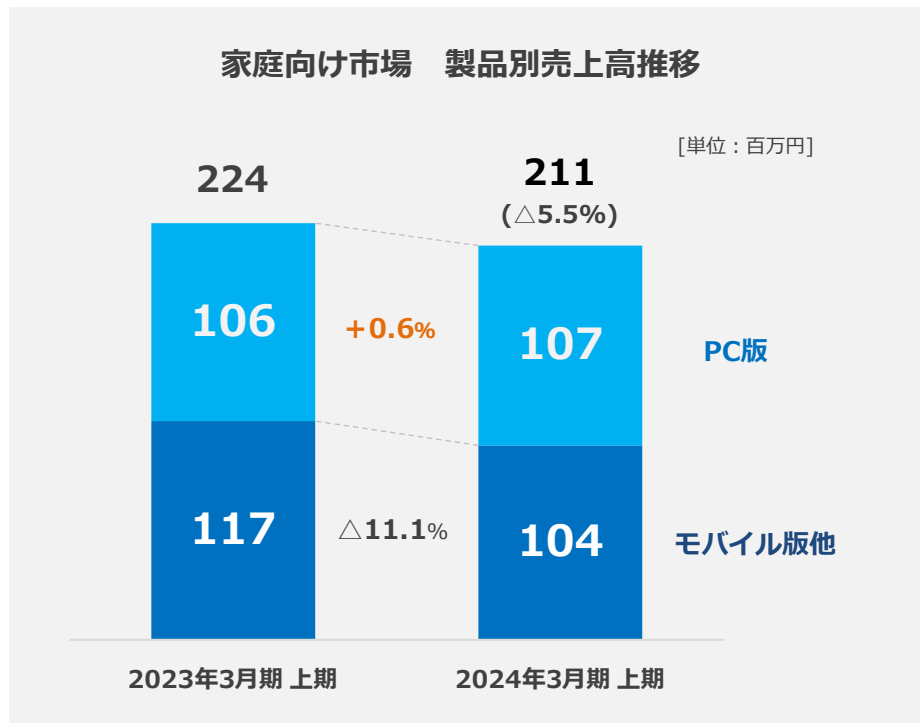
- 「i-FILTER」のシェアは、1Qの55%から**59%**に拡大

\*1: 1,741教育委員会の当社調べ (2023年9月)

03 市場別売上高

# 家庭向け市場

## 学習用BYOD端末におけるフィルタリング対策が新たなテーマとして挙げられる



- PC版は複数年パッケージ製品や複数端末で利用可能な「i-フィルターforマルチデバイス」の利用者数が堅調に推移
- モバイル版他はキャリアからの収入が減少

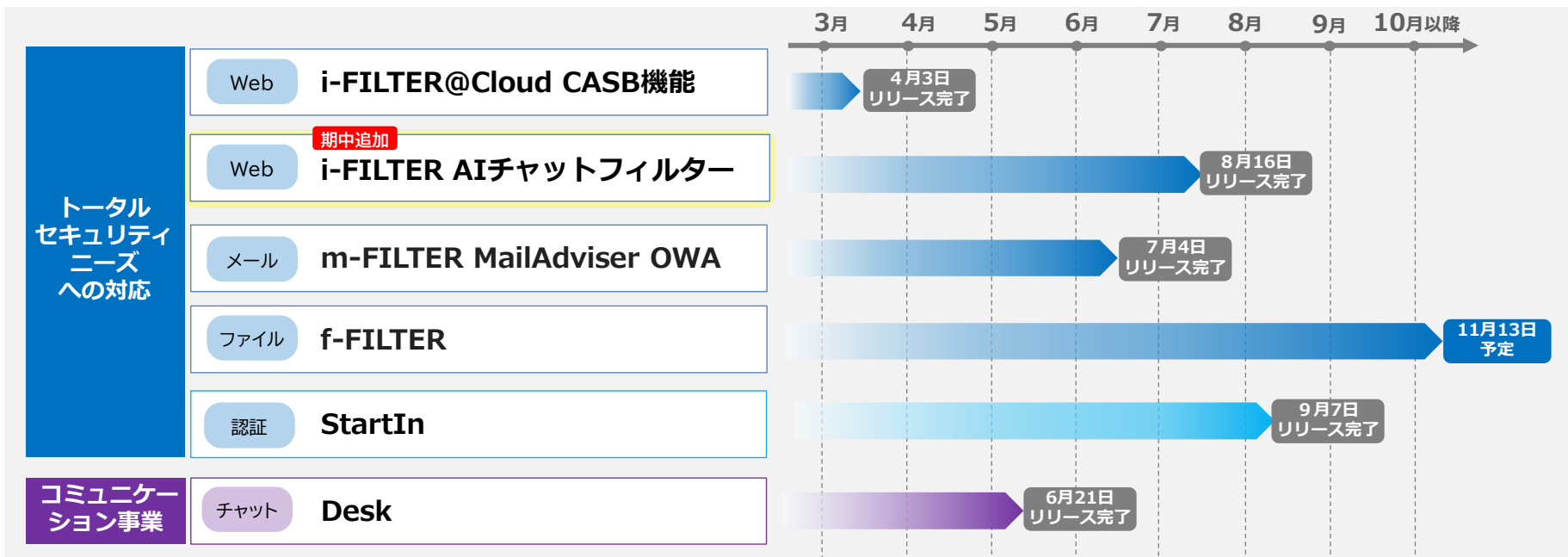
## 2024年3月期 第2四半期決算補足説明資料

---

04

# 2024年3月期 施策の状況

- ◆ 今期予定のトータルセキュリティニーズ対応の機能強化と新製品リリースが2Qまでにほぼ完了
- ◆ コミュニケーション事業開始も予定通り製品リリースが完了



## トータルセキュリティニーズへの対応のため新商材投入し、積極的にマーケティング活動を実施 公共団体・学校向けの取組みにおいては、自治体強靱化・GIGAスクール案件が堅調に推移

施策

取組み状況

トータルセキュリティ  
ニーズへの対応

- ◆ 「i-FILTER@Cloud」CASB機能の搭載による次世代SWG機能の強化
- ◆ マルウェア感染への検知・対応対策を強化
- ◆ PPAP、誤送信対策ソリューションを強化
- ◆ 脱VPN対策製品の開発
- ◆ 生成AI利用のスマートな利活用を促進
- ◆ 「位置情報」や「第三者」など独自の認証方式を搭載したIDaaS製品をリリース

次世代SWG機能強化・マルウェア対策強化

「Anti-Virus & Sandbox」の累計売上高は  
前期358百万円から**530百万円に拡大**

PPAP・誤送信・生成AI・ID管理などへの対応

セキュリティニーズへ対応する新商材が予定通りリリース

i-FILTER@Cloud

CASB機能 AIチャットフィルター

m-FILTER  
Mail Adviser OWA

f-FILTER  
(11月13日予定)

StartIn

公共団体・  
学校向け

- ◆ 自治体セキュリティ強靱化における拡販
- ◆ 「GIGAスクール構想」における更なるシェア拡大と次期更新における準備も実施

自治体セキュリティ強靱化

累計契約高は、前期**1,739百万円**から**2,122百万円に拡大**

GIGAスクール構想

累計契約高は、前期**8,700百万円**から**9,300百万円に拡大**



## 2024年3月期 第2四半期決算補足説明資料

---

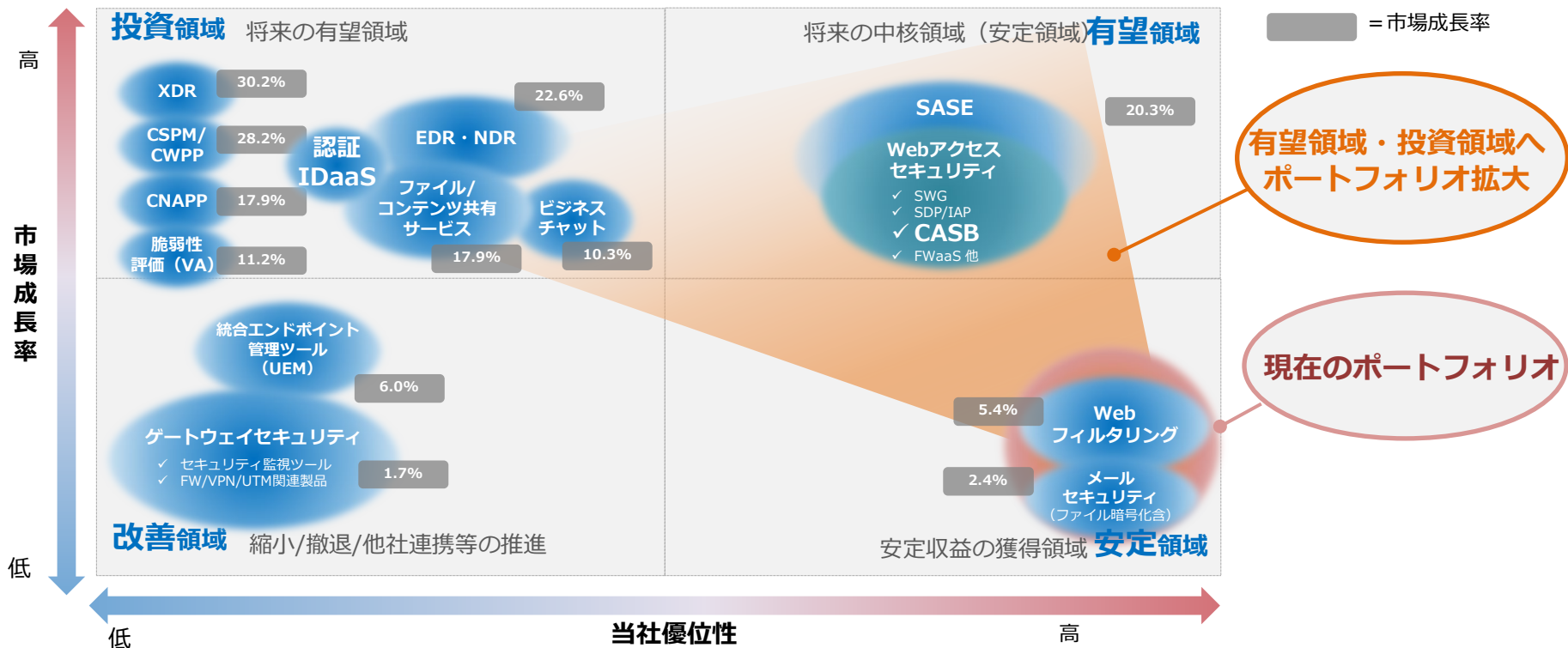
### 05 2024年3月期 今期取組み方針

05 2024年3月期 今期取組み方針

---

# ICT環境への対応

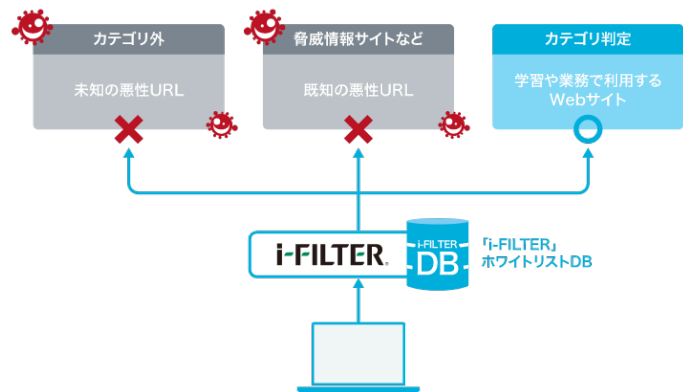
既存主力製品の機能面や顧客基盤において  
シナジー効果を発揮できるように製品ポートフォリオを拡大



## 当社の強みである「ホワイト運用」を軸として 主力製品を含めた新製品とのシナジー効果を最大化していく

### 「ホワイト運用」とは

一般的なセキュリティ対策の考え方である「ブラックリスト方式」ではなく、「ホワイトリスト」データベースに基づく「ホワイト運用」を製品に採用。利用者のリテラシーに関係なく、未知・既知の脅威からICT環境を守ります



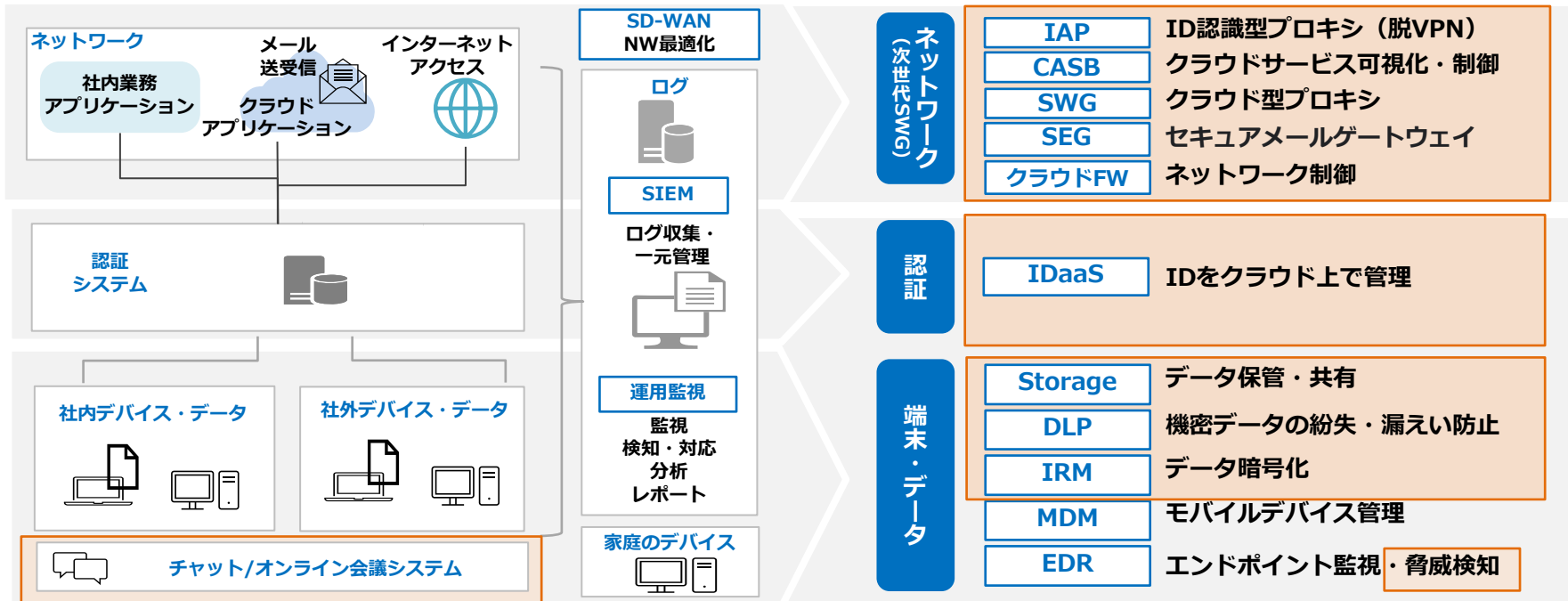
ホワイトリストの  
✓ 「高網羅率/高精度DBの構築」  
✓ 「改ざん対策」を備えること  
により実現できる  
デジタルアーツ独自の運用方式

ICT環境のトータルサポートの実現に向け、新たに「ネットワーク」「認証」「端末・データ」「チャット・オンライン会議システム」について新製品・新機能をリリース

= 今期注力

ICT環境

対応ソリューション



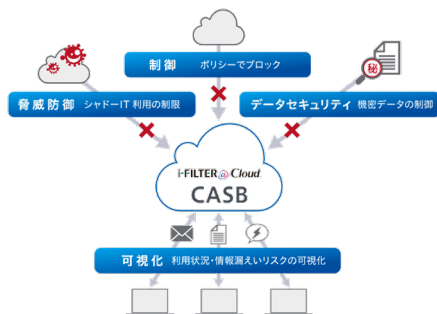
ネットワーク  
セキュリティ

次世代SWG計画におけるメイン機能の一つとなる「CASB機能」や  
ニーズが高まる「生成AI」の利用状況可視化・制御が可能な新機能を「i-FILTER」へ標準搭載

新機能

## i-FILTER@Cloud™

### CASB機能



クラウドサービスの利用状況を可視化・制御  
柔軟かつ強固な情報漏えい対策が可能

### AIチャットフィルター

The screenshot shows the 'AIチャットフィルター' (AI Chat Filter) management interface. It displays a list of chat logs with columns for No., IPアドレス (IP Address), グループ (Group), 日時 (Date/Time), サービス (Service), 状態 (Status), and 検出単語 (Detected Words). The table contains several entries, some with highlighted text in the '検出単語' column.

No.	IPアドレス	グループ	日時	サービス	状態	検出単語
1	192.168.0.2	営業部	2023/07/13 13:40:44	OpenAI (ChatGPT)		
2	192.168.0.2	営業部	2023/07/13 15:40:13	OpenAI (ChatGPT)	ブロック	検出単語
3	192.168.0.2	営業部	2023/07/13 18:47:27	OpenAI (ChatGPT)	ブロック	検出単語
4	192.168.0.2	営業部	2023/07/13 18:44:41	bing AI	ブロック	検出単語

検出したユーザーグループ・時間を確認可能 / 検出単語・検出理由をハイライト表示可能  
対象の生成AIの確認が可能  
検出単語と単語カテゴリを確認可能

生成AIへのアクセスをサービスごとや  
アカウントごとに柔軟に管理・制御可能

### POINT

- ✓ 「AIチャットフィルター」はトレンドツールである生成AIを積極的に利活用したい企業・組織向けの新機能
- ✓ いずれも標準機能としての提供のため、高価格外資製品を予算都合上購入することができない中小・中堅規模の民間企業をメインターゲットとして、更なる案件創出とユーザーの満足度向上を目指す

ネットワーク  
セキュリティ

「OWA (Outlook Web Access)」環境に対応した「ポップアップ型」メール誤送信対策製品  
独自のPPPA対策機能も搭載し、メール送信におけるセキュリティ対策ニーズに幅広く対応

**NEW** **m-FILTER**  
MailAdviser OWA

To, Cc, Bccに指定したアドレスを一覧できる「宛先タブ」

宛先・本文・添付ファイル、それぞれの問題箇所数を表示

各ドメインの行頭に「社外」「携帯」「社内」の順に表示区分  
※その他、「社外」「部署外」「部署内」の表示区分も可能

送信先を瞬時に把握可能  
自動的に各ユーザーの組織情報を取得し、宛先間違いを発見しやすいようドメインを組織情報に変換して表示

誤送信のリスクをまとめて表示

宛先アドレス自体をクリックして確認

カーソルを合わせると確認内容を具体的に指摘

未確認項目があれば送信不可  
「宛先」「本文」「添付ファイル」全てタブの確認をするまでメールは送信不可

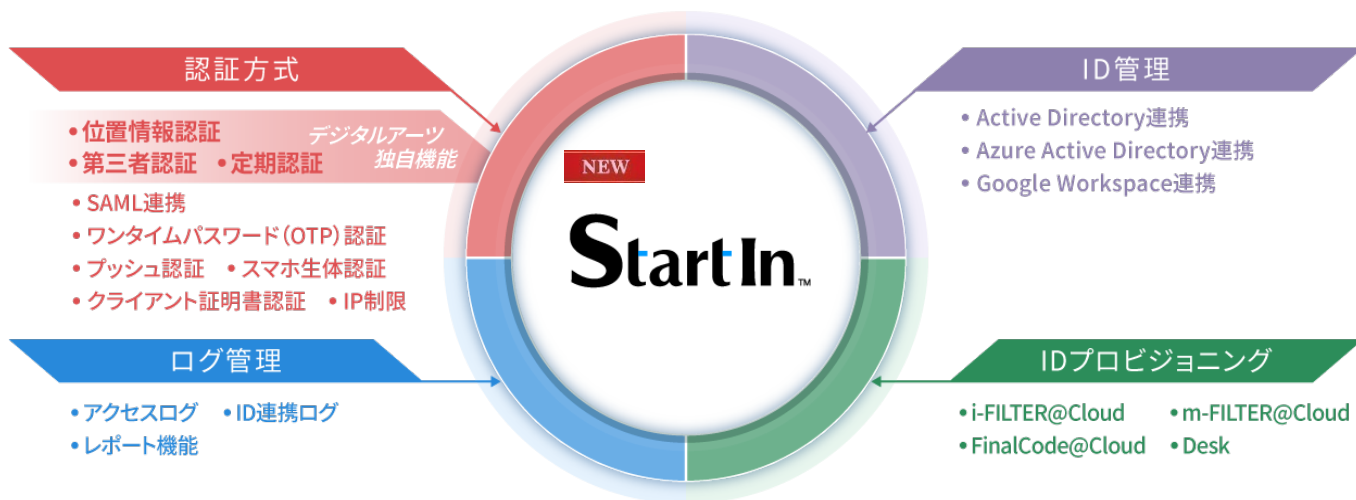
## POINT

- ✓ メール送受信環境は、**端末を選ばない**  
Microsoft 365のOWA環境が増加
- ✓ メール誤送信対策機能に加え、**独自のPPAP対策機能も搭載し**、簡単に導入できる点もポイント
- ✓ OWAでは対策できない**メール送信**における**セキュリティ対策ニーズ**を捉え、**案件創出**を目指す

Web版OutlookのOWAに対応した、ポップアップ型メール誤送信対策  
強固な「メール誤送信防止」と「PPAP対策」が可能

## 認証 セキュリティ

ID管理やログ管理、IDプロビジョニングに加え、独自の多要素認証方式を搭載し、SaaS利用におけるセキュアな認証を実現する新製品「StartIn」をリリース



### POINT

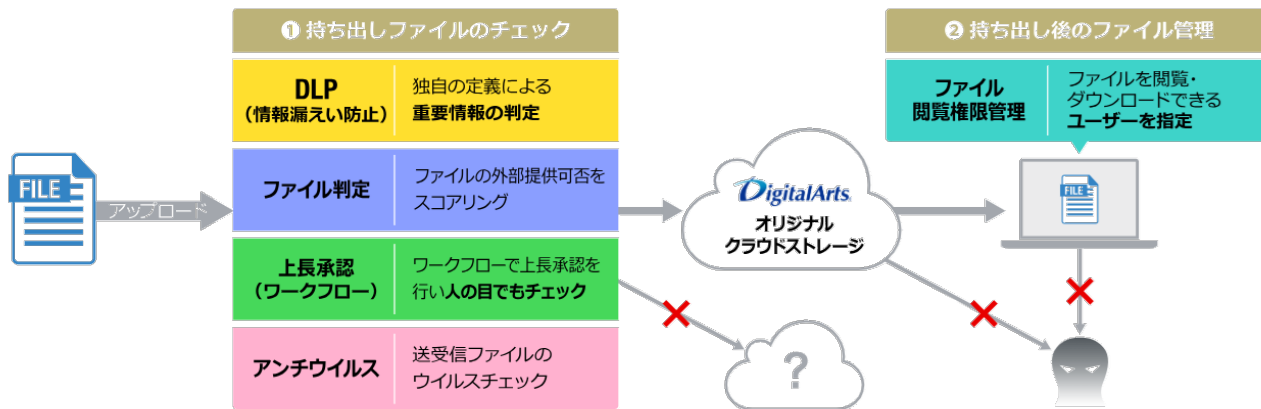
✓ 主に、既存の企業・文教ユーザーをメインターゲットとして、案件創出を実施



データ  
セキュリティ

「DLP」機能を搭載した独自のファイル転送ソリューション「f-FILTER」をリリース  
ICT環境における「端末・データ」の情報漏えい対策ニーズに対応

## NEW f-FILTER™



POINT

✓ 「i-FILTER」や「m-FILTER」との連携ニーズを喚起し、既存ユーザー向けのクロスセルを実施

## チャット・オンライン 会議システム

6月21日（当社創立記念日）に「Desk（デスク）」をリリースし、コミュニケーション事業を開始。顕在化するコミュニケーションにおけるセキュリティリスクに対応



チャット  
オンライン会議

Desk<sup>®</sup>

チャット  
(学校向け)

Desk<sup>®</sup> GIGAスクール版

ウェビナー  
ツール

Desk Event<sup>™</sup>

### POINT

- ✓ 当初ターゲットを**教育委員会・学校**に定め「Desk GIGAスクール版」の知名度向上のための販促活動（無償利用ユーザーの創出）を実施

**05** 2024年3月期 今期取組み方針

---

# 文教ビジネス（GIGAスクール・校務DX）

2024年3月期から今後5年間にかけての文教ビジネスは、「GIGAスクール構想」「次世代校務DX」「DXハイスクール<sup>※</sup>」等の特需により**契約高の伸びが期待**できる



## DX ハイスクール

2024年から約5年で  
最大**8千億円**の  
財政支援の可能性<sup>※</sup>

## 既存GIGA ビジネスの更新



## 製品強化による 当社シェアの向上



単年度予算規模  
約**1,953億円**以上<sup>※</sup>

## NEXT GIGAによる 有償フィルタリング導入率向上

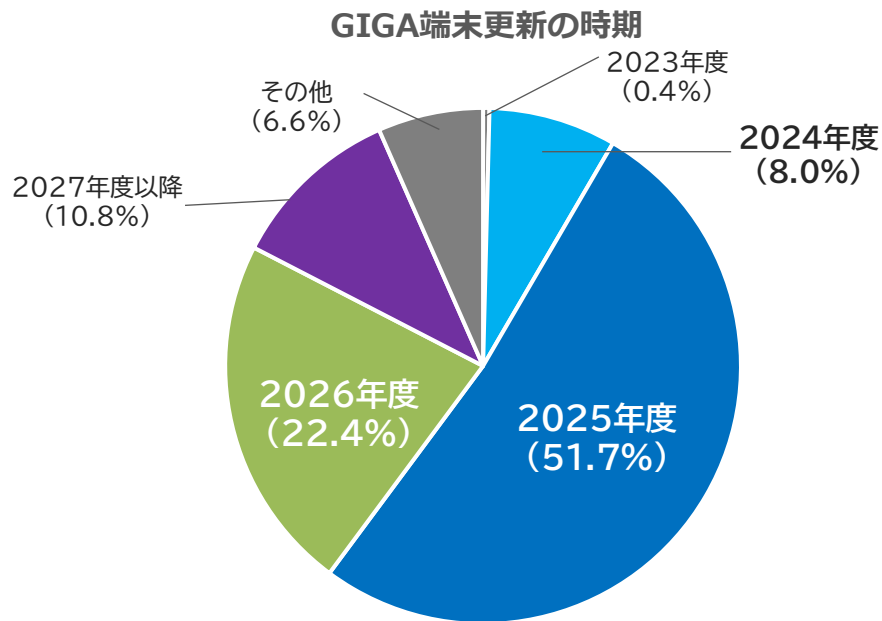


## 次世代校務DX ガイドライン対応

アクセス制御を前提としたネットワークにおける情報セキュリティの確保  
新製品によるセキュリティ対応範囲の拡大

<sup>※</sup>各報道記事に基づき当社作成

## 「NEXT GIGAスクール構想」によるGIGA端末更新は、 2024年度（予算規模:148億円）から徐々に開始され、2025年度には本格化



### POINT

- ✓ 文部科学省が、GIGA端末の利活用状況などについての調査を公表
- ✓ GIGA端末の更新時期については、約6割の教育委員会が「2025年度末まで」に完了
- ✓ その後の更新割合としては、「2026年度」22.4%、「2027年度以降」10.8%となっている

文部科学省は「次世代校務DXの方向性」として以下の実現を求めている

※校務の情報化に向けた財政支援は、従前から地方財政措置 単年度1,805億円が講じられている

## 働き方 改革

① 汎用のクラウドツールの積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする

GIGA端末や既存ネットワーク環境の活用で対策可能

② ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備し、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とする

校務系/学習系ネットワークの統合

## データ 連携

③ 校務系・学習系システムそれぞれが持つデータを低コスト・リアルタイムで連携させることを可能とする

校務支援システムのクラウド化

④ 各種データをダッシュボード機能により統合的に可視化し、学校経営・学習指導・教育政策の高度化を図ることを可能とする

データ連携基盤(ダッシュボード)の創出

## レジ エンス

⑤ 規模災害等が起きた場合にも業務の継続性を確保することを可能とする

校務支援システムのクラウド化

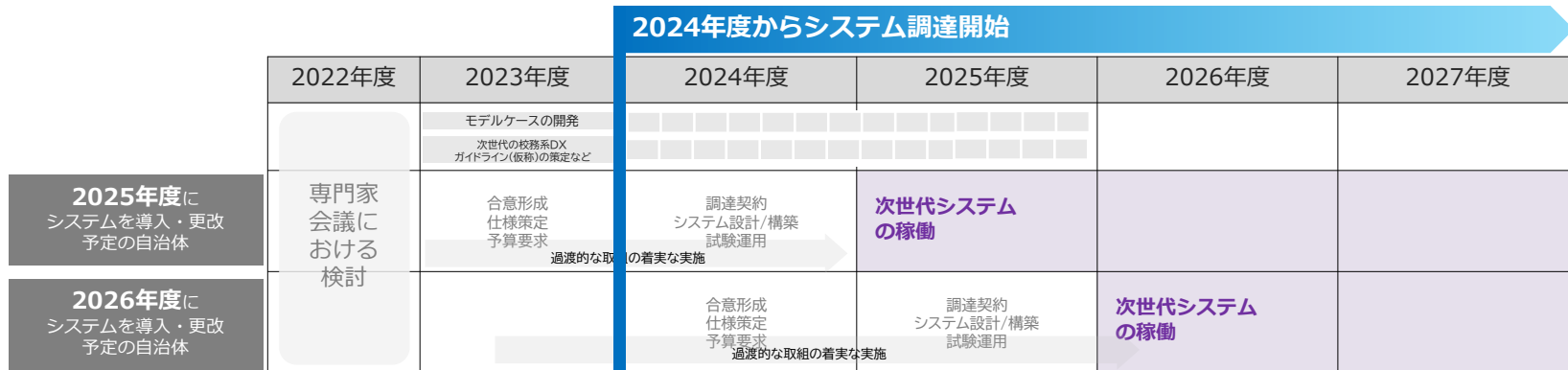
安全安心な形で実装するためのセキュリティの確保が必須

## 2025年度からのシステム稼働に向けて、「校務DX」におけるセキュリティ対策が2024年度からスタート

### ◆統合型校務支援システムの導入・更改予定時期

年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	導入予定なし等
自治体数	317 (17.5%)	319 (17.6%)	216 (11.9%)	380 (20.9%)	353 (19.4%)	230 (12.7%)

### ◆次世代の校務DXに向けた環境整備のスケジュール例



引用：文科省「校務の情報化に関する調査結果（令和4年9月時点）」  
[https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt\\_jogai01-000027984\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_jogai01-000027984_001.pdf)

## 2024年3月期 第2四半期決算補足説明資料

---

### 06 2024年3月期 通期業績予想



## 既存事業の拡大と新規事業の成長により増収増益を目指す

[単位：百万円]

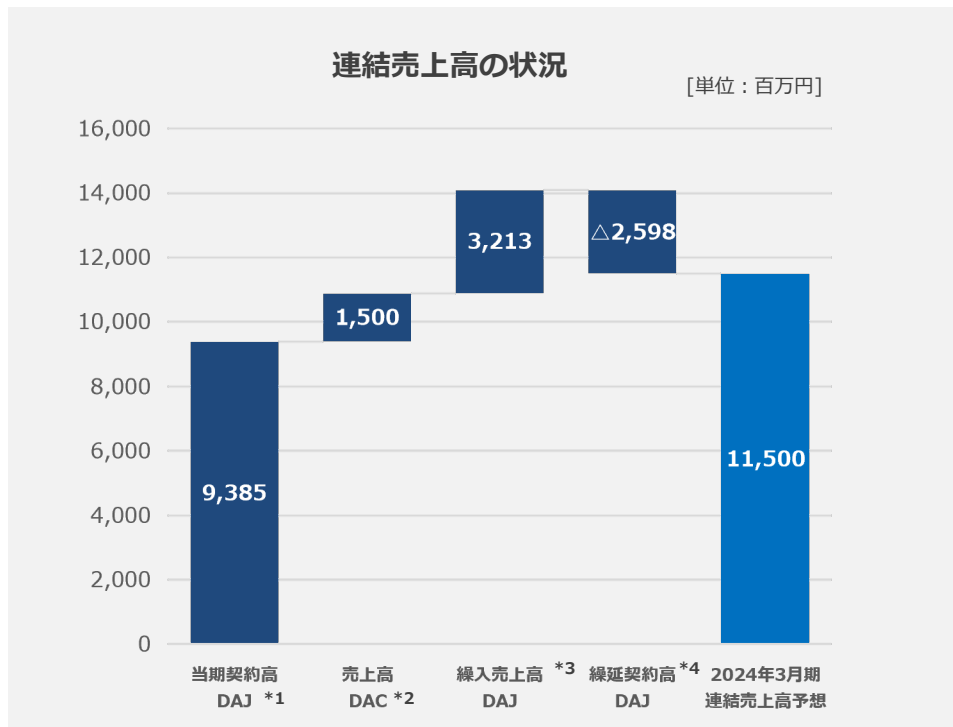
	2023年3月期 通期 実績	2024年3月期 通期 予想	増減額	増減率
売上高	10,436	11,500	+1,063	+10.2 %
売上原価	3,666	3,850	+183	+5.0 %
売上総利益	6,769	7,650	+880	+13.0 %
売上総利益率	64.9%	66.5%	-	-
販売管理費	2,356	2,500	+143	+6.1 %
営業利益	4,413	5,150	+736	+16.7 %
営業利益率	42.3%	44.8%	-	-
経常利益	4,429	5,150	+720	+16.3 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,062	3,550	+487	+15.9 %

## 既存事業の拡大と新規事業の成長により増収増益を目指す

[単位：百万円]

	2023年3月期 通期 実績	2024年3月期 通期 予想	増減額	増減率
売上高	8,984	10,000	+1,015	+11.3 %
売上原価	2,425	2,650	+224	+9.3 %
売上総利益	6,559	7,350	+790	+12.1 %
売上総利益率	73.0%	73.5%	-	-
販売管理費	2,163	2,350	+186	+8.6 %
営業利益	4,395	5,000	+604	+13.7 %
営業利益率	48.9%	50.0%	-	-
経常利益	4,407	5,000	+592	+13.4 %
当期純利益	3,048	3,450	+401	+13.2 %

## 連結売上高は以下の通り予想



- 公共の「GIGAスクール構想」において、前期以前に獲得した契約高増加による影響で、当期に繰り延べ計上される売上高が増加
- DAJの当期契約高は、企業及び公共向けの新機能や新製品の拡販施策と戦略的営業施策により、9,385百万円を見込む

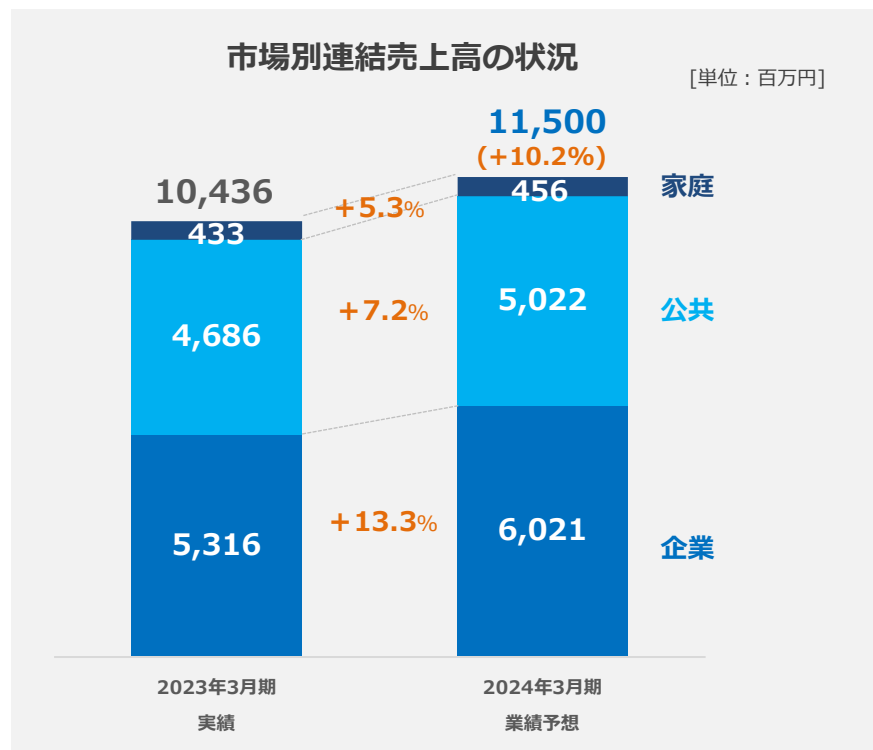
\*1：DAJ=デジタルアーツ株式会社

\*2：DAC=デジタルアーツコンサルティング株式会社

\*3：前期以前に獲得した契約高の契約残高から当期に売上計上

\*4：当期契約高のうち、翌期以降に繰り延べられて売上計上（契約残高）

## 市場別連結売上高は以下の通り予想



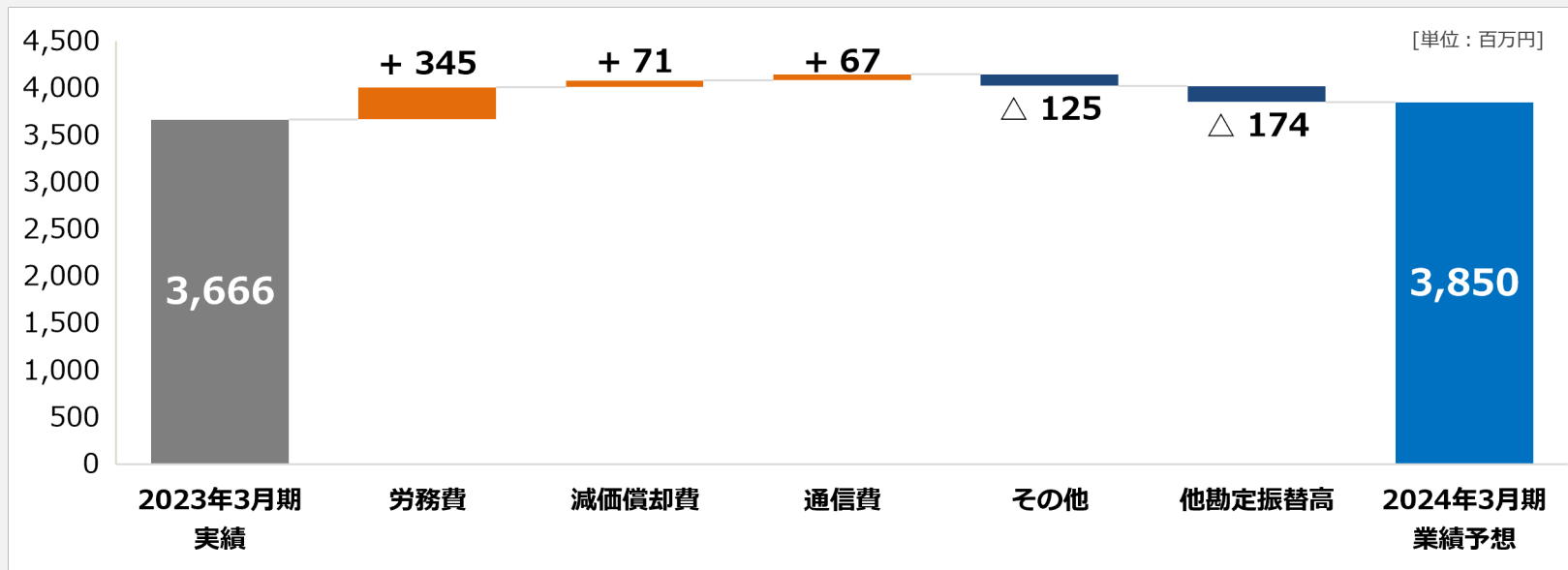
- 企業のトータルセキュリティニーズへの対応として、製品ラインアップ拡充により、新規顧客の獲得
- 公共の「GIGAスクール構想」において前期以前に獲得した契約高増加の影響で、当期に繰り延べ計上される売上高が増加
- 「GIGAスクール構想」のシェア拡大と自治体セキュリティ強靱化における拡販

## 新製品・新機能リリースに伴う労務費と通信費、人件費の増加などを見込む

	2023年3月期 実績	2024年3月期 業績予想	前年同期比	主な増減要因
売上原価	3,666	3,850	+5.0%	
労務費	1,634	1,980	+21.1%	DAJの開発人員リソース増加
減価償却費	838	910	+8.5%	クラウドサービス系製品ソフトウェアの減価償却費増加
通信費	1,162	1,230	+5.8%	クラウドサービス系製品の拡販によるライセンス数増加に伴うクラウドサーバー費用の増加
その他	895	770	△14.1%	DACのエンジニア外部委託業務の内製化による外注費の減少
他勘定振替	△865	△1,040	+20.1%	
販売費及び一般管理費	2,356	2,500	+6.1%	
人件費	1,193	1,310	+9.7%	新卒採用による人員増加
広告宣伝費	297	310	+4.1%	新聞などのメディア広告の増加
その他	865	880	+1.7%	新型コロナウイルス感染症収束に伴う旅費交通費増加

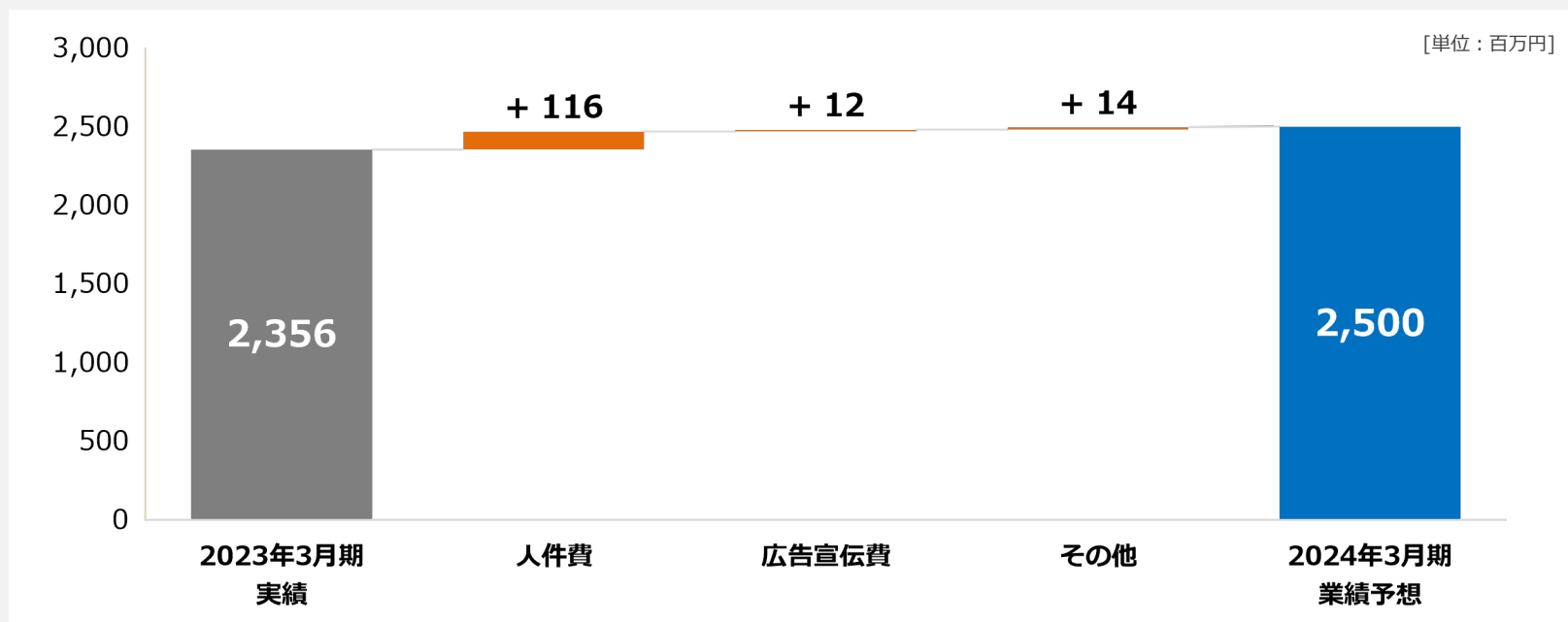
DAJの開発人員リソース増加に伴う労務費と減価償却費の増加、クラウドサービス系製品の拡販によるライセンス数増加に伴うクラウドサーバー費用（通信費）の増加

連結売上原価の状況



新卒採用社員による人員数の増加に伴う人件費の増加  
新型コロナウイルス感染症対策の収束による旅費交通費・交際費（その他）の増加

連結販売費及び一般管理費の状況



## 2024年3月期 第2四半期決算補足説明資料

---

### 07 2024年3月期 株主還元



株主の皆様に対する**利益還元**につきまして、以下の通り計画しております。

- ◆ 2024年3月期の目標連結配当性向は、31.6%
- ◆ 2024年3月期年間剰余金配当予想額は1株当たり 80.00 円
- ◆ 年間で1株当たり5.00円の増配予想

	1株当たり配当金（円）			連結配当性向
	第2四半期末	期末	年間	
2023年3月期	35.00	40.00	75.00	34.4%
2024年3月期	<b>40.00</b>			
2024年3月期（予想）		<b>40.00</b>	<b>80.00</b>	<b>31.6%</b>

株主還元を重視した自己株式の取得についても、業績動向並びに株式市場の動向等を勘案しつつ、機動的に実施予定です。

- 本プレゼンテーション資料に記載されている計画、戦略、財務的予測のうち歴史的事実でないものは、将来の見通しに対する記述であります。
- 本見通しは、当社経営陣が現在入手可能な情報に基づき判断したもので、環境等の変化により大きく見通しの変動する可能性があり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
- 今後、重要な変化がある場合は適宜開示します。
- 本プレゼンテーションの基本的な数値の記載は、一部を除き百万円未満を切り捨てて表示しています。

デジタルアーツ、DIGITAL ARTS、i-FILTER、i-FILTER Anti-Virus & Sandbox、i-FILTER@Cloud Anti-Virus & Sandbox、i-FILTER@Cloud Dアラート発信レポートサービス、info board、Active Rating System、D-SPA、Anti-Virus & Sandbox for D-SPA、NET FILTER、SP-Cache、White Web、ZBRAIN、クレデンシャルプロテクション、ホワイト運用、m-FILTER、m-FILTER MailFilter、m-FILTER Archive、m-FILTER Anti-Spam、m-FILTER Anti-Virus & Sandbox、m-FILTER@Cloud Anti-Virus & Sandbox、m-FILTER@Cloud Dアラート発信レポートサービス、m-FILTER File Scan、Mail Detox、m-FILTER EdgeMTA、EdgeMTA、FinalCode、i-フィルター、DigitalArts@Cloud、Desk、Desk Event、StartIn、f-FILTER、DアラートおよびDコンテンツその他の弊社・弊社製品関連の各種名称・ロゴ・アイコン・デザイン等はデジタルアーツ株式会社の登録商標または商標です。

*DigitalArts*®

-より便利な、より快適な、より安全な  
インターネットライフに貢献していく-